

＜編集後記＞

初年次教育学会誌第11巻第1号をお届けできる運びとなりました。前任の沖清豪編集委員長(早稲田大学)から引き継ぎ、編集委員会体制も新しくなったの初仕事です。ただ、ご承知のように、平成30年度の学会大会(酪農学園大学)は台風21号および北海道胆振東部地震に見舞われ、1日目午後の大会企画シンポジウムのみの開催という大変残念な次第となりました。その結果、学会誌の構成も例年とは少し変わったものとなります。

大会企画シンポジウムは、「初年次教育とチームづくり—動機づけとリーダーシップの側面から—」というテーマで開催され、大会実行委員長の大和田秀一会員(酪農学園大学)の趣旨説明後、中谷素之氏(名古屋大学)による講演1「初年次教育とチームづくり—人間関係と動機づけはどうつながるか—」、日向野幹也氏(早稲田大学)による講演2「立教経営と早稲田でのリーダーシップ教育—各学部での初年次教育 vs 全学での選択科目—」が行われ、それぞれ論稿としてまとめていただいて本巻に掲載しております。

2日目の課題研究シンポジウムは「初年次教育の評価とは何か(仮題)」というテーマで報告が予定されていましたが、上述の通り取りやめとなりました。谷尾宣久会員(千歳科学技術大学)による「千歳科学技術大学における初年次教育の取組と課題—大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」を中心に—」、藤木清会員(関西国際大学)による「関西国際大学における初年次教育の成果と評価—IR担当の視点から—」については、あらためての書き下ろし論稿を頂戴することができましたので、本巻に掲載することといたしました。両会員には別段の手間をおかけいただき、心より厚く御礼を申し上げます。また、両会員による今回の論稿は、今までの毎巻で会員の皆様にご紹介してきた「課題研究シンポジウムの記録」ではなく、(シンポジウムそのものが開催されなかったのですから)「課題研究論文」としての位置づけになろうかと考えております。

未開催となったワークショップ・ラウンドテーブルについては、昨年度まではその概要を掲載しておりましたが、今回は掲載を見送ることといたしました。いずれも、当日のリアルタイムでのフロアとの交流があつてこそ成立する企画だからです。

学会誌にとって最も重要な投稿論文については、本巻では、研究論文3件、事例研究論文4件の投稿があり、会員の中からお願いした査読者のご協力をいただいた結果、研究論文1件、事例研究論文3件の掲載に至ることができました。詳細かつ丁寧な査読作業にご協力いただいた的確なコメントを下さった査読者の皆様には、別して心からの御礼を申し上げます。また、自著紹介については1件の掲載となりました。

年度後半から年度末にかけての慌ただしい中、頼りない編集委員長を支えて下さった編集委員諸兄姉にも、身内最良ながらお礼を申し上げます。拙いながらも本巻が発行にこぎつけられたのは、ひとえに彼・彼女らの貢献によるものです。また、会員の皆様からの変わらぬお支えも、引き続きお願い申し上げます。

初年次教育学会誌編集委員長 川島啓二(京都産業大学)